

# この本を 読まずに 死ぬな!

人生を変える  
珠玉の **15冊**

村田 朋博

# この本を読まずに死ぬな!

## CONTENTS

### はじめに

幕開け……もっとも美しい文章

第一章……人生

第二章……自然哲学

第三章……破天荒

第四章……日本の美

第五章……人文哲学

第六章……社会

最終章……もっとも温かな文章 村上春樹さん

あとがき……お礼に代えて

## 意思決定者との 信頼関係の構築

企業が事業を推進するうえで、顧客企業のトップとの信頼関係の構築が重要であることは論を俟ちません。それが実現できていれば、日々の業務を円滑に進めることができるでしょうし、渾身の提案を直接トップに訴えることもできるでしょう。

しかしながら、豊富な経験と優れた見識をお持ちの企業トップから信頼を獲得することは容易ではなく、大きなテーマと言えます。

## 重鎮は何を求めているのか? ~上場企業創業者の激高

名を成した重鎮は何を求めているのか? 私の経験を2つ示します。

ある企業の創業者の記事を拝読し、大変興味深い内容であったので代表電話に電話をしてみたところ、予想外に創業者につながり、面談をご承諾いただきました。面談当日、応接室でお待ちしていると創業者がいらっしゃって、名刺交換……。

その瞬間に、創業者は「出ていけ!」と激高されたのです。お会いした瞬間に、です。作り話と思われるかもしれませんが、本当です。私はまだ「はじめまして」としか発言していません。

名刺をご覧になった瞬間に、応接の外にも聞こえる声で叫ばれたのです。「お電話で許可いただいたので参りました」と申し上げても、「そんな覚えはない!」と取り付く島がありません(詳しくは書けませんが、ある業界の所作に不満があり、私も同種の間人だと勘違いされたのです)。私は逡巡しましたが、何も悪いことはしていないと思いき直し、動きませんでした。

その後どうなったか? 創業者と二時間にわたって話をし、さらには社内見学の後、創業者の車に乗せていただきお昼までご馳走になりました。

どのように創業者の信頼を獲得したのはさておき、面談中に創業者から渡されたのは本のリストでした。リストにあったのは、経営の本ではなく、人生、哲学、宗教に関する本でした。

また、ある著名経営者に講演をお願いした時も同じでした。「経営の話はもう十分じゃないかな? それよりも、生き方、哲学の話をしたい」と言われたのです。

## 「世界」を拡張する ~現代のリベラル・アーツ

直接的な仕事の話もちろん重要ですが、遠回りにみえて実は、仕事とは直接関係がない領域でのより深い信頼関係の構築が重要であると言えます。

重鎮との信頼関係を構築するためには、自身の「世界」を拡大させる必要があります。そのための現実的な回答が読書です。読書は、他人の経験を自分ものにする事だからです。ただし、凡庸な世界ではなく、百戦錬磨の重鎮でさえも驚くような世界でなければなりません。

我々が4月に出版した「この本を読まずに死ぬな! ~人生を変える珠玉の15冊~」は、15の非凡世界を紹介するものです。

ギリシャ、ローマ時代に源流を持つリベラル・アーツは、「人間に必要な学」として、文法学、修辞学、論理学、算術、幾何、天文学、音楽の七つ、さらにその「上位」学問として哲学があったそうです。本書では、やや大げさですが、現代のリベラル・アーツとして、自然哲学、人文哲学、人生、社会、文学の本を15冊取り上げました。「自然哲学」では相対性理論、量子論、宇宙論。「人文哲学」では車谷長吉さん、川上未映子さん。「人生」ではカズオイシグロさん、モブノリオさん、村上春樹さん……など珠玉の15冊を紹介しています。

もちろん、この15冊が全てではありませんが、「世界」の拡張のために是非ご活用いただきたいと思います。

